

科学部カメ班 「淡水ガメ情報交換会」で発表！



発表する部長のOちゃんとKちゃん



当日のポスター

2014年12月20日（土）、科学部カメ班の発表が終わると、会場は**大きな拍手**に包まれた。淡水ガメ情報交換会は、年に1回、全国から淡水カメの研究者が集まる大きなイベントで、今年は120名程度が参加。1日目は、アカミミガメ（ミシシippアカミミガメ）のシンポジウムが行われ、科学部カメ班は其中で発表した。

アカミミガメは、ペットショップで売られている**ミドリガメ**のことである。ミドリガメは数年でかなり大きくなるため、飼いきれなくなって捨てられたカメが全国各地で大繁殖している。その結果、在来種や農業などに大きな影響を及ぼしているのだ。しかし、増えることはわかっていても、『**何年で成体になり、いつ産卵するのか？1年に何回産卵し、何個産卵するのか？**』といった基本的なことは、実は誰もわかってなかった。佐野高校の研究は、それをきちんとしたデータの裏付けのもとに、明らかにしたのである。

発表後の拍手は「高校生にしてはよく頑張ったね」という努力賞的なものではなく、「今まで知りたかったことをよくぞ説明してくれた。」という心からの賛辞であることが伝わってきた。シンポジウムのコーディネーターの先生は、「アカミミガメの繁殖に関して答えられるのは、**日本で君たちしかいない。**これはすごいことなんだよ。わかってる？」とコメントしてくれた。これは、リップサービスではなく、実際、そうなんだろうなと実感した。

科学部カメ班が、日本のカメ研究、ひいては生物多様性の保全に大きく貢献できたことは、本当に素晴らしいことである。

